

# 風しん対策(抗体検査)の実施率の向上策

- 健診団体** ○ 集合契約の加入を徹底⇒どの健診機関でもクーポン券を使用可能に▶ 健診団体ごとに加入率を把握  
○ 健診の受検者に案内や予診票を送付することを徹底▶ 随時、送付した人数を把握

## 大企業(大規模事業場)

経団連(&健保連)と連携して以下を依頼

### ①風しん対策の担当責任者を決定

(健診の担当責任者、総括安全衛生管理者、総務部長、厚生部長、人事部長等)

### ②安全衛生委員会等で対策を協議

### ③健診の機会に併せた抗体検査を実施

or 集団の抗体検査を実施

### ④対象世代の従業員数と抗体検査の実施人数等を報告

### ⑤(希望する)事業場に個別支援

### ⑥その他、都道府県経由で大規模事業場にアンケート(従業員1000人以上の事業場)

大企業の職員に対する抗体検査の実施を促進

## 中小企業

協会けんぽと連携して以下を依頼

### ①「生活習慣病予防健診」の実施機関(全国に約3,400)の内、風しんの集合契約に未加入の機関に契約加入を徹底。

### ②実施機関から本健診の受診者に対して案内や予診票を送付することを徹底。

### ③都道府県と連携して、事業所を経由して、クーポン券を持参して健診を受けることを従業員に周知。

協会けんぽの被保険者の約半数が受けている「生活習慣病予防健診」の機会に併せて、風しんの抗体検査が実施できる体制を構築

## 自営業等

都道府県・市町村に以下を依頼

### ①都道府県(国保・衛生部局)と連携して「特定健康診査」の委託先の医療機関の内、風しんの集合契約に未加入の機関に契約加入を徹底。

### ②市町村が実施する集団検診の機会に併せて抗体検査を実施。

### ③特定健康診査の予診票等の送付時に、風しんの案内や予診票を送付。

### ④特定健診と風しんの抗体検査を同時に実施するための取組状況を報告すること

「特定健康診査」の機会に風しんの抗体検査を実施できる体制を構築

## 国家公務員・独法職員 地方公務員

人事院と連携して各府省等に、総務省と連携して各自治体に以下を依頼

### ①風しん対策の担当責任者を決定(本省では福利厚生室長、会計課長、人事課長等)

### ②幹部会議等で対策を周知

### ③健診の機会に併せた抗体検査を実施 or 集団の抗体検査を実施

### ④対象世代の職員数と抗体検査の実施人数等を定期的に報告

公務員等に対する抗体検査の実施を徹底

# 風しんの追加的対策の進捗状況

## 追加的対策のポイント

特に抗体保有率が低い**41～58歳※の男性**に対し、

※2020年4月時点

- ① 予防接種法に基づく定期接種の対象とし、3年間、**全国で原則無料**で定期接種を実施
- ② ワクチンの効率的な活用のため、まずは**抗体検査**を受けていただくこととし、**全国で原則無料**で実施
- ③ 事業所健診の機会に**抗体検査**を受けられるようにすること等の体制を整備

**【目標1】2020年7月までに対象世代の男性の抗体保有率を85%に引き上げる**

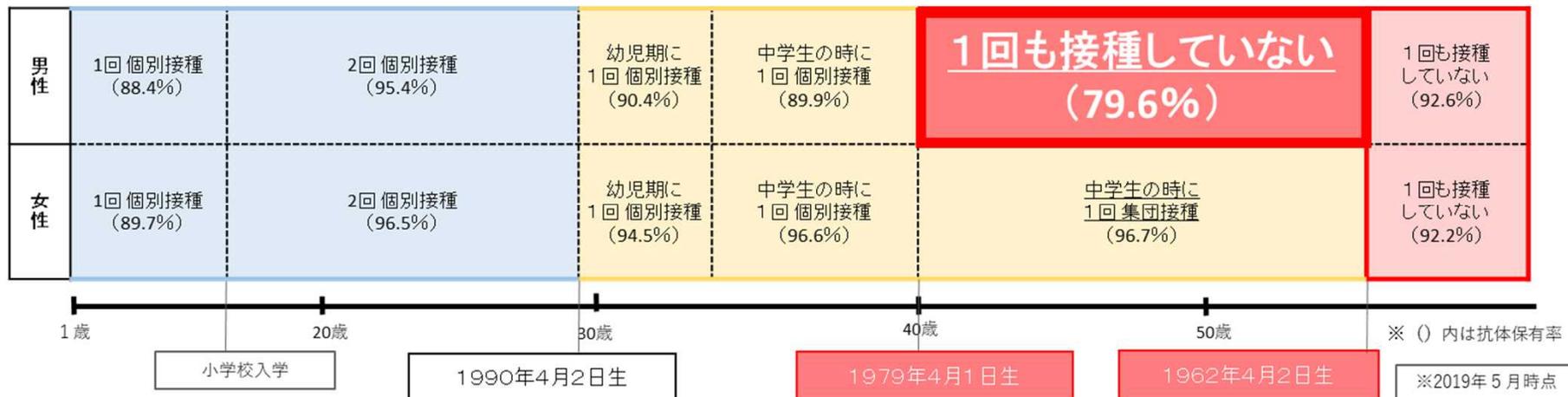
**【目標2】2021年度末までに対象世代の男性の抗体保有率を90%に引き上げる**

## 抗体検査の実施状況

**【目標】  
2020年7月までに  
480万人に検査**

**【現状】  
2019年11月末で  
109万人に検査**

抗体検査の実施率を高める必要

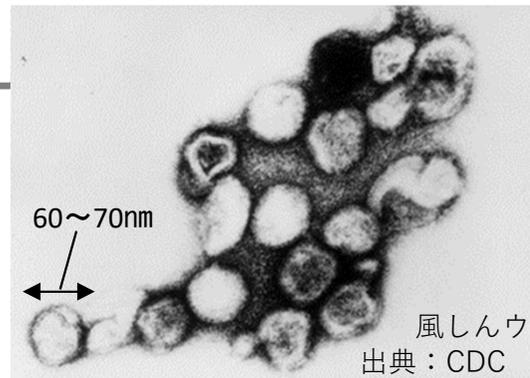


【出典】国立感染症研究所「年齢/年齢群別の風疹抗体保有状況」2013-2017年をもとに算出（10歳以下のみ2017年のデータで計算）

# 風しんについて

## 風しんとは

- ① 症 状 : 発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とするが、**15~30%は無症状**である。
- ② 潜 伏 期 間 : 14~21日間。
- ③ 感 染 経 路 : 飛沫感染。**感染力が強い**（**発症約1週間前~発疹出現後1週間程度感染力がある**）。
- ④ 治 療・予 防 : 対症療法のみ。予防にはワクチンが有効。



風しんウイルスの電子顕微鏡写真  
出典：CDC Public Health Image Library

## 先天性風しん症候群（CRS）とは

- 風しんに対して免疫のない女性が、特に妊娠初期に罹患した場合に出生児に引き起こされる障害。
- 出生児に引き起こされる障害としては、
  - ・ 先天性心疾患、難聴、白内障が三大症状
  - ・ ほかに網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球 など

### 先天性風しん症候群の児に見られる主な症状



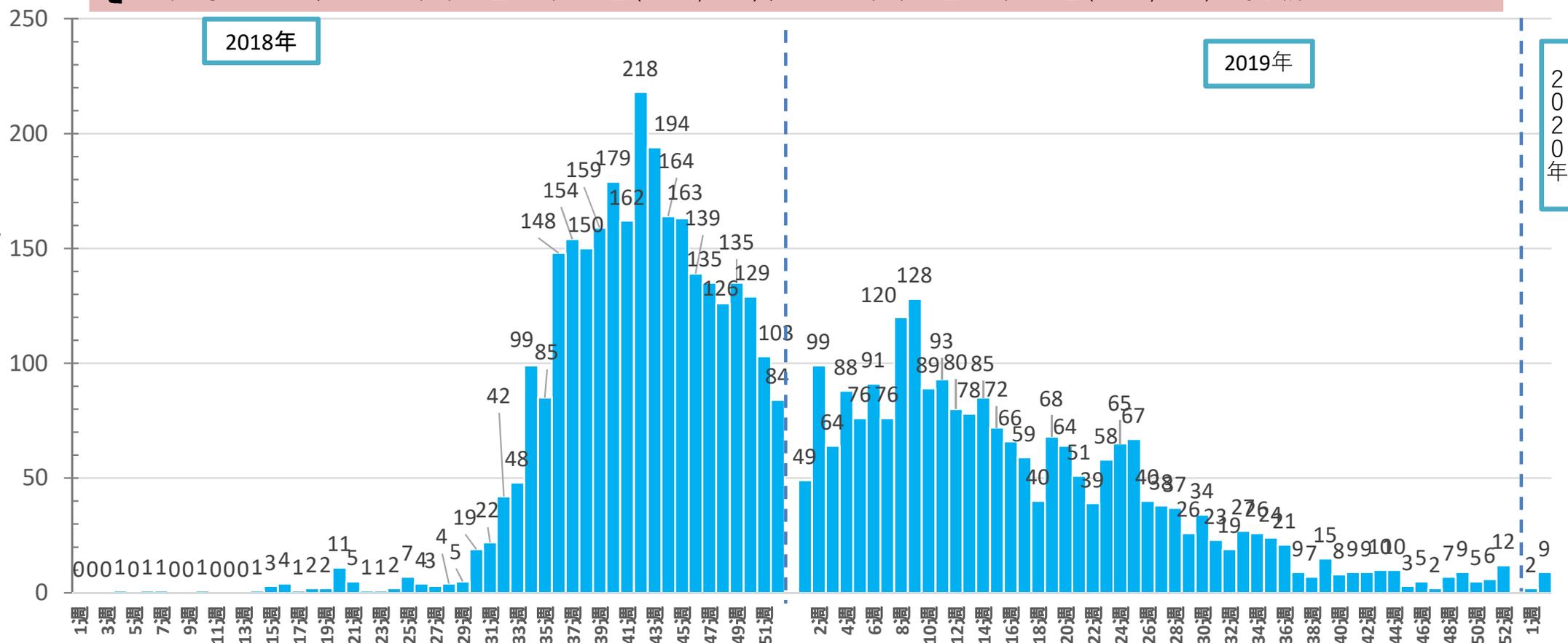
# 風しん報告数

2020年第1～2週、n=11(2020年1月16日現在暫定値)  
(2019年12月30日～2020年1月12日)

※第2週においては、第2週分として報告を受けた9例に、第1週分として報告を受けた1例を加えた10例が前週(1例)から増加

※参考として、2018年第1週～第52週(n=2,917)、2019年第1週～第52週(n=2,306)を掲載

風しん報告数

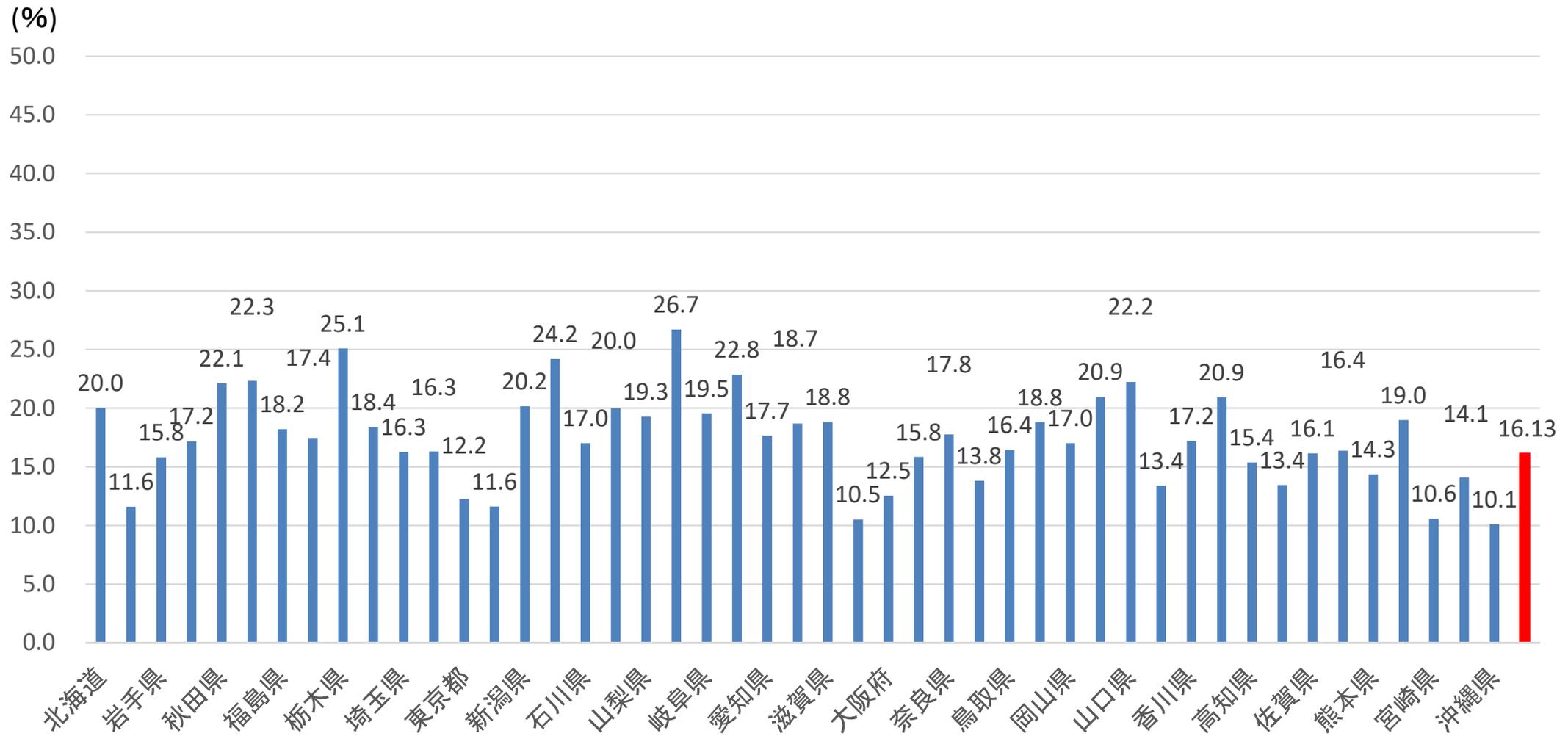


【風しん・CRSの発生報告数の年次推移】CRSは1999年4月～開始(2006年の報告から感染地域が報告対象となった)

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
風しん										294	147	87	378	2386	14344	319	163	126	91	2917	2306	11
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0	4	1

国立感染症研究所の感染症発生動向調査。2018年及び2019年は週報速報値(暫定値)、2020年は2020年1月16日現在の暫定値

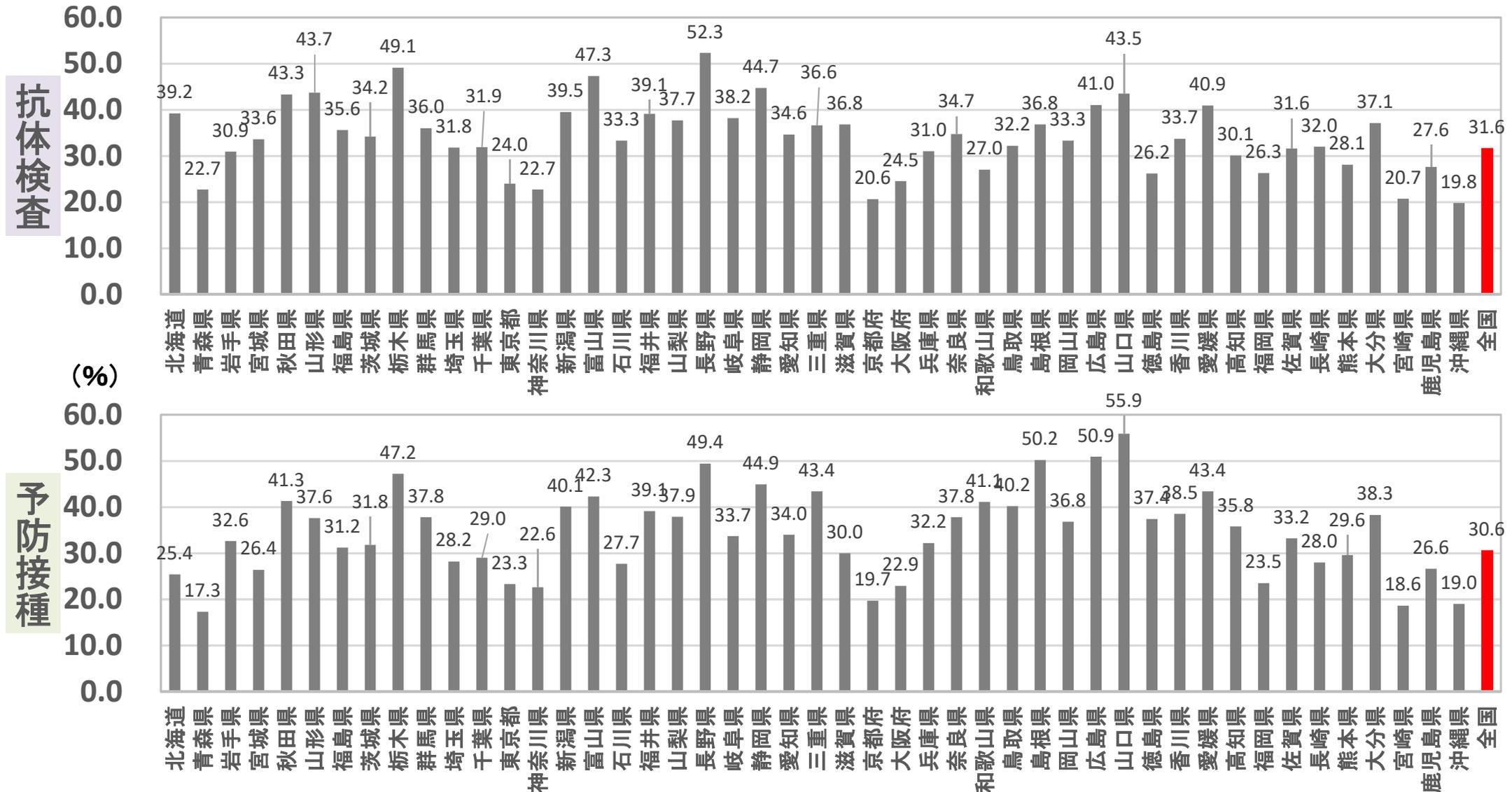
# 2019年度風しんの追加的対策 抗体検査を受けた割合(4～11月実施状況)



対象世代で抗体検査を受けた割合 = 抗体検査の実績数 / 都道府県別40～47歳人口  
 全都道府県別40～47歳人口 = 約646万人

# 都道府県別の進捗状況(4~11月実施状況)

進捗状況:今年度、抗体検査を受けることが見込まれる方(約330万人)又は定期接種を受けることが見込まれる方(約70万人)に対する本年11月末までの実績



抗体検査の進捗率 = 抗体検査の実績数 / (都道府県別40~47歳人口 × 51%※1)

予防接種の進捗率 = 予防接種の実績数 / (都道府県別40~47歳人口 × 51%※1 × 21%※2)

※1 51% = 330万人 / 646万人 ※2 21% = 対象世代の抗体保有率から推計される陰性の割合の全国平均値